

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（平成30年度～令和4年度）
研究開発課題名	薬用植物種苗供給の実装化を指向した開発研究
代表機関名	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
研究開発代表者名	吉松 嘉代

総合評価：優れている

【評価コメント】

薬用植物国内栽培化の本格的な普及・拡大に向け、種苗の確保、増殖及び供給に係る課題を着実に遂行した。苗生産システム構築や優良種子選別法開発等、薬用植物の安定供給に係る基盤構築を進めるとともに、製薬企業が開発を希望する薬用植物についても種苗供給の拠点整備や栽培化を進め、実装化が期待される。薬用植物は、マイナー作物であるため、種苗の入手先は極めて限定されてきたが、本研究成果により、選び抜かれた優良種苗が継続して安定提供されるシステムが構築されることは、薬用植物国内栽培の進展に大きく貢献できるものである。そのためにも、均一な生育状態で且つ交雑のない種苗生産が効率的に行われていくよう企業等と引き続き連携し、提案された薬用植物資源技術開発コンソーシアムの実現を、薬用植物研究の拠点として牽引することを期待する。

ただし、2040年の国産比率30%達成に向け、より多くの薬用植物について同様の研究を進める必要もあるが、種苗の生産コスト、提供量や栽培期間等の観点も含め、提案のコンソーシアムで対応できるかが課題であり、さらに実装化を意識して研究を進めていただきたい。そのためにも、研究成果の公開は重要であり、生産者に向けたアウトリーチ活動も広く行い、栽培指導体制の構築も進めていただきたい。

以上